



アウトプットのためのインプット

ついこの前まで暑い日が続いていたのが一転、日に日に涼しさを増し、秋の深まりを感じるようになりました。季節の移ろいは私たちの身の周りにも様々な“変化”を与えてくれます。

同じように3年後に大きな“変化”を控える2020年の教育大改革。今年11月には現高2・3年生を対象に、センター試験に替わる「大学入学共通テスト」のプレテストが全国的に実施されます。ようやく目に見えて教育大改革が動き出しました。

昨今の日本の学校教育も、知識偏重型の“インプット教育”から、課題解決型の“アウトプット教育”に着実に変化を遂げようとしています。一方でインプット（知識の習得、すなわち学校の学習内容の理解）の段階で戸惑いを見せるケースも少なくありません。

アウトプット教育を掲げているLABO7ですが、このようなケースにも対応すべく、かねてより定期テスト対策等で行っていたグループ型個別指導を常設化し、日ごろから学校の学習内容を身につけ、自分の特性にあわせたインプットの習得に努めることのできる「ST (Study Training) コース」を9月より本格的に始めました。現に、中高生の夏期休暇明けの課題テスト・実力テストや先日行われた2学期中間（第3回）定期テストでも続々と成果が上がっています。

また、最近では、2020年に国公立大学の個別選抜（現・二次試験に替わるもの）として、論述式の問題を出題する方針が固まったこともあり、ディベートで行う立論を論述する試みを私立中2・3クラスで行ったり、小6Mix（合教科）では、説明文・論説文を読んで自分の意見を数百字で論述するテーマにチャレンジしたりなど、「記述・論述力の強化」にも力を入れています。

習得した知識を駆使して、自分の考えや思いをきちんと言葉にのせて伝えることができるように、多面的なアプローチで表現力を育てていきます。